

II

ペットフードの与え方と取扱い

ペットの健康を守るためには、飼い主自身がペットの生態や必要な食べ物について理解し、適切にフードを与えることが大切です。



1 市販のペットフードの選び方

犬は雑食性、猫は肉食性です。犬には犬用の、猫には猫用のフードであることを確かめ、目的と成長段階にあった製品を選びましょう。

総合栄養食	このフードと水だけで必要な栄養素がまかなえる主食タイプの製品
間食	おやつとして与える製品
その他の目的食	特定の栄養素やカロリーの補給などを目的に与える製品で、一般食（おかずタイプ）、療法食（病気の犬猫の食事療法）、サプリメントなど

2 ペットフードの取扱方法

未開封の製品は直射日光の当たらない温度変化の少ない場所で保管し、賞味期限内に使い切るようにします。開封後のフードは風味の劣化や品質の変化（酸化、腐敗、かび発生など）を避けるため、適切な取扱いを心がけましょう。

フードのタイプ	取扱いで注意したいこと
乾燥した粒状のドライ製品	開封後は袋の封をしっかりと、直射日光が当たらず、温度や湿度の低い場所で保存する（目安としては1ヶ月以内に使い切る）。また冷蔵庫に保管し出し入れすると、フード表面に結露を生じ、かび等の発生原因となるので要注意。フードボウルに出すときに入れすぎないようにし、時間がたったものは取り替える。
缶詰やレトルトパウチなどのウェット製品	フードボウルに出した後は風味や品質の変化が早いので、出しっぱなしは避ける（給与時間は20分程度を目安）。開封時に食べきれない分は別容器に移しかえて冷蔵庫に保管し、できるだけその日のうちに使い切る。1食ずつに分けて冷凍保存し、その都度、解凍して与えるという方法もある（解凍時の外観や風味の変化には注意）。
ジャーキーやササミなどのセミモイストタイプのスナック製品	密封包装された製品を開封して余った分は、しっかりと封をして常温ではなく冷蔵庫に保管する（目安としては2週間程度で使い切る）。冷蔵庫からは使う分だけを取り出すようにする。また袋の中の脱酸素剤は、開封後は効力が失われる。